一般社団法人　日本看護学教育学会主催

第3回　臨地実習指導研修会

今、改めて臨地実習指導とは（基礎編）

２日間の集中研修でブラッシュアップ！

第3回臨地実習指導研修会（一般社団法人日本看護学教育学会主催）が開催されました。研修会の様子と研修参加者アンケート集計結果を報告します。

研修日時、場所： リファレンス駅東ビル（福岡市博多区博多駅東1丁目16-14）
平成30年3月3日（10時~16時）、3月4日（9時~15時）

研修目的： 看護学実習（臨地実習）についての基礎知識の修得を通して、実習指導の質向上に向けた自己の課題を明確にする。

研修目標：

１）授業としての看護学実習の特徴を理解する。
２）実習指導における教授活動の特徴を理解する。
３）実習中の教授活動を自己評価する。
４）実習指導の質向上に必要な学習課題を明確にする。
５）学習課題を克服するために必要な手段を述べる。

主催者、ファシリテーター： 理事長　佐藤紀子（東京女子医科大学），総務委員　森田夏実（東京女子医科大学）教育活動委員長　前田ひとみ（熊本大学），水戸優子（神奈川県立保健福祉大学），山口みのり（神奈川県立保健福祉大学），大池美也子（国際医療福祉大学），定廣和香子（札幌市立大学），秋元恵子（倉敷中央看護専門学校），池田真美（熊本看護専門学校），石東佳子（京都中央看護保健大学校），服部美穂（人間環境大学），古都昌子（札幌市立大学），松田安弘（群馬県立県民健康科学大学），道屋純子（蕨戸田医師会看護専門学校），山口直己（豊橋創造大学）

研修1日目スケジュール

グループワーク1
- 開会の辞、オリエンテーション
- 自己紹介・役割分担
- 学習課題の明確化（文献カードに記載した課題の共有、優先順位の検討と焦点化）

中間報告
- 3つの課題の掲示、課題の報告
- 課題の明確化に向けた質疑応答

講義1
- 実習指導の基礎知識講義（看護基礎教育カリキュラムと看護学習、授業としての看護学実習の特徴など）
講師：定廣和香子（札幌市立大学）

グループワーク2
- 講義を受けて、教授活動を自己評価するとともに自己学習にて解決可能な課題を明確にし、掲示物をはずす

全体討議
- 残った課題を確認し、意味内容の類似性に基づき分類する
- 課題の統合結果を共有する
- 残された課題の整理、まとめ

研修２日目スケジュール

シンポジウム
- ファシリテーターによるシンポジウム
課題解決に向けたヒント（学習課題に関連したミニ講義、コメント）

グループワーク3
- ヒントを得て、自己学習により解決可能となった課題の掲示をさらにはずす
- 残された課題について解決方法を検討

成果発表 総評
- 残された課題と解決方法の発表
- 解決できた課題の経過報告

講演
- 臨地実習指導に磨きをかけるわざ
講師：大池美也子（九州大学）

修了証授与
- 佐藤理事長、前田委員長より総評
- 修了証の授与
- 閉会の辞

※問い合わせ先　一般社団法人日本看護学教育学会　事務局　kenshu2018.03@jane-ns.org

一般社団法人　日本看護学教育学会主催

第3回　臨地実習指導研修会

研修1日目の様子

前田委員長と研修の目的を確認しスタートしました。

10:20～ グループワーク1

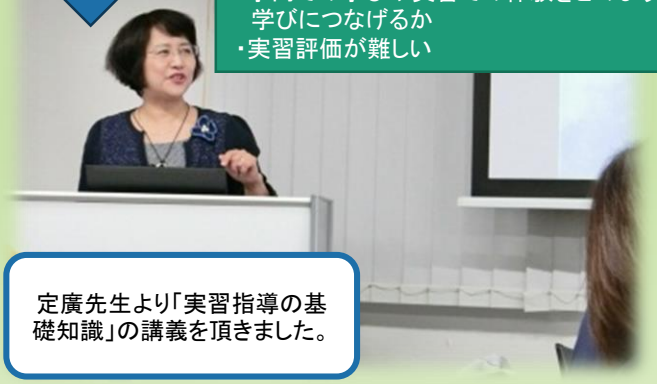
14グループに分かれて自己紹介を行った後、実習指導における課題を出し合い、各グループ3つの課題に整理しました。

11:15～ 中間報告

水戸先生の司会のもと課題を壁に掲示し、グループごとに報告しました。

【各グループから挙げられた課題】
- 学生が対象に興味関心をもてるようにするための関わり
- 学校と臨床の連携
- 学生の主体性を引き出す指導
- 学内での学びや実習での体験をどのように学びにつなげるか
- 実習評価が難しい

12:50～ 講義1



定廣先生より「実習指導の基礎知識」の講義を頂きました。

14:20～ グループワーク2

定廣先生の講義を受けてこれまでの教授活動を自己評価しました。さらに自己学習によって解決可能と思えた課題の掲示は外しました。

15:30～ 全体討議

古都先生を中心に残った課題を確認したうえで、内容の類似性に基づきカテゴリー化し、翌日に向けてまとめました。

※問い合わせ先　　一般社団法人日本看護学教育学会　事務局　kenshu2018.03@jane-ns.org

一般社団法人　日本看護学教育学会主催

第3回　臨地実習指導研修会

研修2日目の様子

9:00 ～ シンポジウム

シンポジストの先生方総勢15名が並んで、昨日残った課題（9つ）について、事例や考え方など課題に向けたヒントが紹介されました。

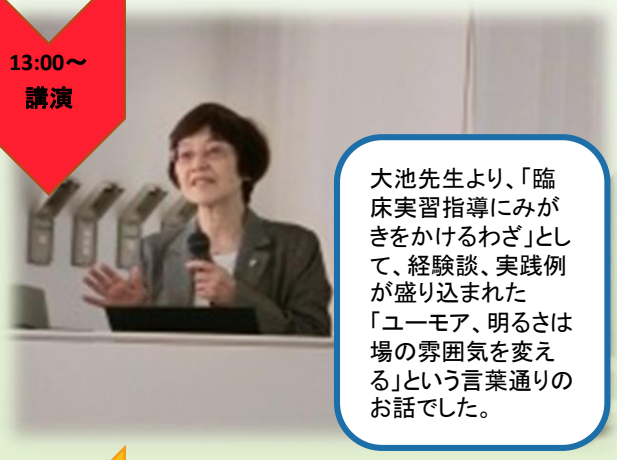
定廣先生「実習目標に照らして指導をしましょう」
松田先生「学生ではなく学習成果を評価しましょう」
水戸先生「トライアンギュレーションの活用が有効」
前田先生「患者に関心が向く問いかけをしましょう」
石束先生「私たちがモデルとなって感動できる体験を」
山口みのり先生「学生のサインをひろうことが大切」
森田先生「自身が思考でき言語化できていますか」
秋元先生「複数の患者で一通りを学べる調整」
服部先生「モチベーションスイッチを一緒に探しませんか」
山口直己先生「はじめの一歩を踏み出しましょう」
佐藤先生「連携から創造へ」
大池先生「一筋縄ではいかないものが変化する面白さ」
古都先生「教員がわくわくしよう」
池田先生「つまづきに気づいてもらう関わりが必要」
道屋先生「看護師として学生と向き合う」

10:15～ グループワーク3

ヒントを得て、残された課題について解決方法を検討し解決可能と思われた掲示を外していきました。最後は、今後も考え続けたいという思いからあえて課題を残したというグループもありました。

11:10～ 成果発表 総評

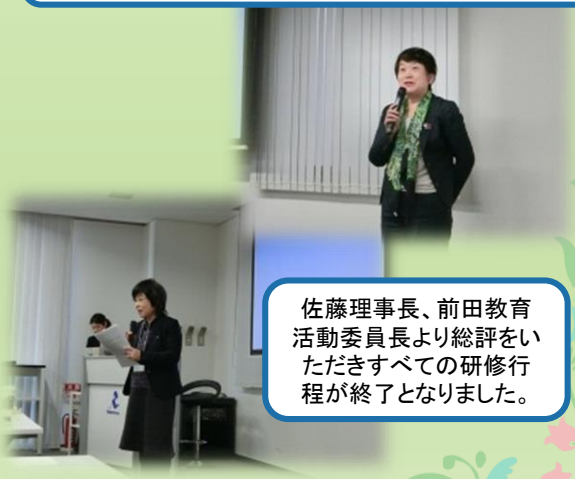
13:00～ 講演



大池先生より、「臨床実習指導にみがきをかけるわざ」として、経験談、実践例が盛り込まれた「ユーモア、明るさは場の雰囲気を変える」という言葉通りのお話でした。

14:30～ 修了証授与

2日間の研修お疲れ様でした。代表の方には佐藤先生から、修了証が授与されました。各グループにはファシリテーターから修了証が手渡されました。



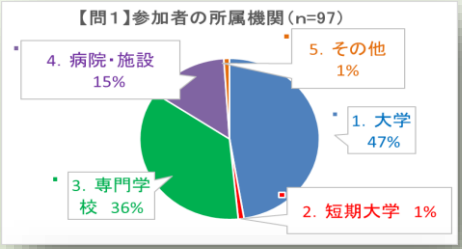
佐藤理事長、前田教育活動委員長より総評をいただきすべての研修行程が終了となりました。

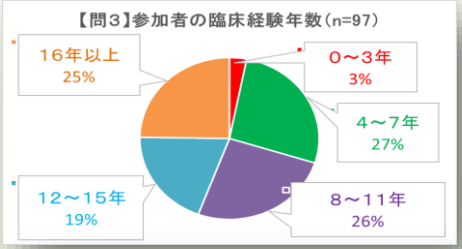
※問い合わせ先　　一般社団法人日本看護学教育学会　事務局　kenshu2018.03@jane-ns.org

一般社団法人　日本看護学教育学会主催

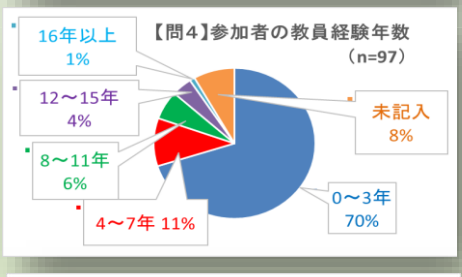
第3回　臨地実習指導研修会

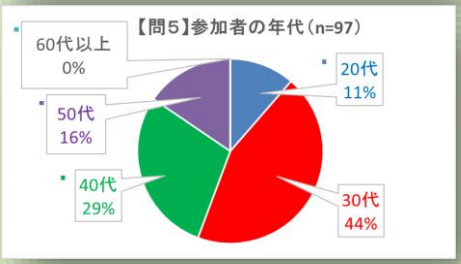
研修参加者アンケート集計結果より（回答者数97名）



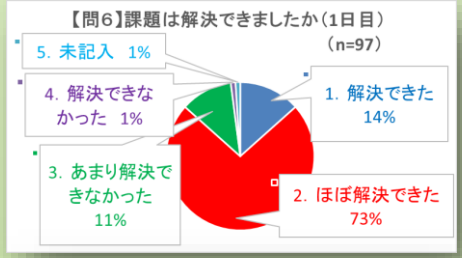


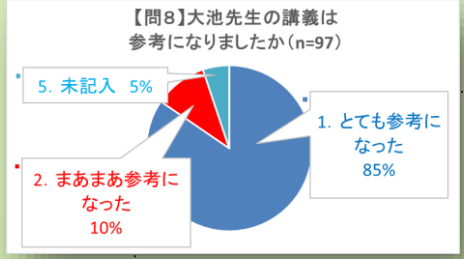
【問2】		%
1．教授	1	1.0
2．准教授	3	3.1
3．講師	1	1.0
4．助教	28	28.9
5．助手	12	12.4
6．副校長	0	0.0
7．教務主任	1	1.0
8．実習調整者	0	0.0
9．専任教員	33	34.0
10．実習指導教員	3	3.1
11．師長	0	0.0
12．主任	0	0.0
13．実習指導者	11	11.3
14．スタッフナース	2	2.1
15．その他	1	1.0
未記入	1	1.0
計	97	100.0

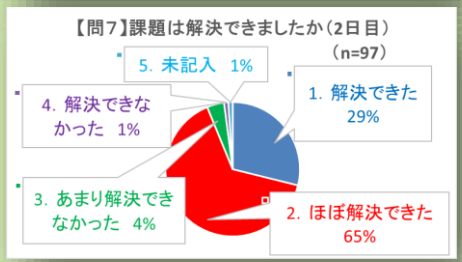


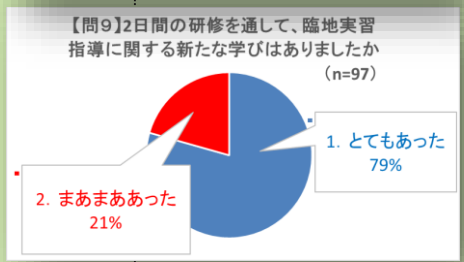


臨床経験が豊富な大学や専門学校の若手の先生が多く参加してくださいました。臨床指導者の参加は13%でした。









2日間の研修で9割前後の参加者が、臨床実習指導上の課題が「解決できた」「ほぼ解決できた」と回答していました。大池先生講義や一連の研修を通しての臨地実習指導に関する学びについては、すべての参加者が「とてもあった」「まあまああった」と回答していました。

※問い合わせ先　一般社団法人日本看護学教育学会　事務局　kenshu2018.03@jane-ns.org

一般社団法人　日本看護学教育学会主催

第3回　臨地実習指導研修会

研修参加者アンケート集計結果より（回答者数97名）

今後の研修会希望に関する自由記載		件数
応用編の希望 計11件	・応用編・中級編などがあれば参加したい	5
	・今回の研修会を受けて取り組んだ結果を報告する機会があると面白いと思う	3
	・実習指導に関して継続シリーズ化してほしい	1
	・別の基礎編を楽しみにしている	1
	・看護過程の教育について興味がある	1
対象に関する希望 計7件	・教員経験が浅めの人向けの研修と、経験者向けの研修を分けて開いてほしい	2
	・今回のような教員・指導者合同の研修	2
	・臨床指導者向けの研修があれば参加したい	1
	・新任教員向けの研修があれば参加したい	1
	・同じバックグラウンドの人と情報交換できる研修を開いてほしい	1
教材、内容に関する希望 計16件	・カリキュラム、授業デザインと教授活動、評価までのプランニングの手法についての研修	3
	・講義の教授方法についての研修 ・演習の教授方法についての研修 ・実習の教授方法についての研修（実習記録の助言、看護過程の指導）	3
	・研究論文の進め方についての研修	2
	・今回のような内容の研修	2
	・難解な事例に対する講義とディスカッション	2
	・定廣先生の講義内容のような研修	1
	・日々の授業からのフィードバックの方法	1
	・発達障害、自閉症スペクトラム障害等、障害傾向のある看護学生の支援についての研修	1
	・系統的に教育を教育者同士で学ぶ研修	1
講師に関する希望 計4件	・大池先生の講義はとても良かった、大きな学びになり、もっと受けたい ・遠くから来てよかった、大池先生のようになりたい	2
	・松田先生の講義を聴講したい	1
	・話題が議題からそれてしまっていたので、ファシリテーターの方に修正して頂きたかった	1
GWに関する希望 計4件	・教員〇年目等、職位や領域別など、関連性のあるグループ分けだと良かった	2
	・教員による授業デザイン方法(基礎編)をグループワークなどでしてみたい	1
	・グループワークの中で経験豊富な先生からたくさんお話を聞くことが出来て良かったが、しばしば他の方から上がった疑問や課題についてズバッと返答される場面があった	1
時間・時期に関する希望 計4件	・一日の研修を希望	1
	・年に複数回の開催を希望	1
	・今後も定期的に開催してほしい	1
	・臨地実習指導について考える勉強会などが定期的に行われると良いと思った	1
開催場所に関する希望 計3件	・鹿児島での開催	1
	・関東での研修が同時にあると、関東への出席になるが、どちらか1つだと新しい方々との考え方の交流があるので、今回とても良い経験になった	1
	・とても貴重な研修であり、参加しやすい開催地を検討して頂きたい	1
その他 計4件	・昼食時、同じ学校で食べずにグループで食べてみてくださいとのアナウンスが効果的だった。この一言で外食をしようと考えていた人もグループで食べ、様々な情報交換ができた。思いがけないことでとても良い変化が生まれた	1
	・研修は楽しかった	1
	・グループディスカッションが良かった	1
	・実習場面での指導者の行動・特徴が時間の都合で無かったのが残念だった	1

※問い合わせ先　一般社団法人日本看護学教育学会　事務局　kenshu2018.03@jane-ns.org

一般社団法人　日本看護学教育学会主催

第3回　臨地実習指導研修会

研修参加者アンケート集計結果より（回答者数97名）

2日間の研修会の学び・感想（自由記載）		件数
研修を通しての学びや感想 計77件（複数回答有）	・看護教育についてもっと深めていきたい ・熱い先生方がおり、楽しく勉強することができた ・様々な先生方から多くの学びを得られて有意義だった	15
	・講義、グループワークを通して、課題に対するヒント・工夫点・解決策を見いだせた ・自分の学生指導について振り返り、改善点を見つけた ・自分の課題については解決に至らなかった	14
	・自分の指導を振り返り、自信を持つことができた ・同様の悩みを共有でき、教育のモチベーションアップにつながった ・一緒に考えてくれる仲間との出会いに感謝したい	14
	・思考の整理ができ、現状の明確化につながった ・自己の課題の明確化につながったので、取り組んでいきたい ・課題を言語化することで、解決策が見えてきた	9
	・今回学んだことを明日からの教育現場で実践していきたい ・看護教育、指導に向けての力をもらった ・実践に結びつかないのはなぜかを考えた	8
	・学生を信頼することが大事であり、課題でもある ・学生に対して看護の魅力を伝えていきたい ・ベテランの先生方のわざを教えてもらったので、学生を教育する役割を果たしたい	7
	・教員・指導者間の連携や、現場での実習指導に活かしていきたい ・指導者として、実習生・病棟スタッフとの架け橋になりたいと思った ・教員・指導者間の連携が重要であり、課題であると感じた	5
	・実習に対して、実習要項を違った視点で読める気がして、緊張が軽減した	1
	・実習中の教員による患者対応について、スタッフとの軋轢の一幕があり、消化できていない	1
	・所属する教育機関の考え方や3つのポリシーをよく把握することが大切だと思った	1
	・院内教育にもつながる内容であり、具体性や思考の提示への支援が必要なのかと思った	1
	・色々な背景の教員・指導者の方と交流できる場は一長一短だと思った	1
講師に関する感想 計20件（複数回答有）	・大池先生・水戸先生の話から、教育の面白さを感じた	6
	・経験豊富なファシリテーターの話に刺激を受け、学んだ	7
	・関係いただきました先生方有難うございました	3
	・大池先生の講演は、助手の立場からは真似できるのは難しいと思った	1
	・松田先生、定廣先生の講義で舟島先生の著書の理解が深まった	1
	・各テーブルにファシリテーターがおり、より良い議論ができた	1
	・ファシリテーターの先生方からヒントやアドバイスが多くあったものの、結局は自分の経験値を上げないと解決できないと思った	1
GWに関する感想 計25件（複数回答有）	・グループワークで様々な人と意見交換ができて、よい学びとなった	9
	・グループワークを通して自己の課題が明確になった	7
	・グループワークを通して課題への解決策を見いだせた	5
	・グループワークを通して同様の悩みを共有し、前向きな気持ちになった	4
研修に関する意見等 計4件	・受講要件が新人対象のつもりでいたが、新人ならではの悩みや話について話せる場だと思っていたことが心残りだった	1
	・グループワーク中心で、方法論について聞けたのは良かったが、実習指導の「基礎」で良いのかなと思った	1
	・同じ立場の人や同じ領域の人と話ができる機会が欲しかった	1
	・グループワークのメンバーが少し多い気がする	1

※問い合わせ先　　一般社団法人日本看護学教育学会　事務局　kenshu2018.03@jane-ns.org